

YouTube「TBS NEWS DIG Powered by JNN」 戦地などの映像をノーカットで流せば 信用性も高いと感じてもらえる

news
23
所属ジャーナリスト
須賀川 拓さん



五感で感じたものを 画面の向こうの人に伝えたい

——イスラエルとハマスの武力衝突から10月7日で1年になります。須賀川さんは、ガザをはじめ戦地や被災地の取材で活躍されていますが、YouTubeでのロングレポートも高い人気を博しています。

須賀川■ロングレポートという形で出したのは、2020年の“レバノン大規模爆発”が最初でした。地上波だと短いレポートしかオンエアされません。短いニュースだと、不都合な部分を切り取っているんじゃないかと思われることがあり、信頼感を得るという意味でもロングレポートは流したいとずっと思っていました。

また、テレビで最も一般的な12秒ほどでまとめる短いレポートは、僕は得意ではありません。もう少し長くレポートしてみようという感じで始めたら、そっちのほうがやりやすくて、また現場で自分の言葉でレポートしたほうがしっかりと伝わるんじゃないかという思いもあったので、YouTubeで始めてみました。

——発信する側にとって、YouTubeはどのような場なのでしょう？

須賀川■まず、尺の制限がないというのが大きな利点です。非常に長いコンテンツを作るときに、ノーカットで流せば信用性も高いと感じてもらえると思います。

それから、コメント欄で反応を知ることができるのも大きなポイントです。「ありのままを写してくれてありがとう」とか「この映像を見て支援しました」というコメントを読むと、すごくありがたいなと思います。

——取材したときに「これは再生回数が増える」という手応えはありますか。須賀川■あります。現場に近いこと、独自の映像や視点であること、そんなときはすごく手応えを感じます。あとは自分がとてもめり込んでいるときですね。現場で見聞きしたこと、匂いとか明かりの強さとか、そういった五感で感じたものを、できるだけ画面の向こうの人に伝えるようにしています。

YouTubeと地上波は相互通行 役割が全然違う

——YouTubeを見たらうで、放送も見てほしいという思いはありますか。須賀川■僕は両輪だと思っていて、地上波からYouTubeに流れてもいいし、YouTubeから地上波に流れてもいい。相互通行だと思います。

地上波至上主義は、もちろん時代の流れではないのですが、かといって地上波軽視というのも違うと思っています。やはり役割が全然違うんです。速報性もそうだし、短い時間でいろいろな要素を詰め込んでちゃんと報じるのは地上波の強みだと思います。

ですから、地上波のニュースをネットでやっても見てくれません。逆も然りで、ネットでしつこくやっているのを地上波に出しても誰も見ないので、その役割を明確に分けて考えたほうがいいと思っています。

——今後、何か挑戦してみたいことはありますか？

須賀川■いっぱいあります。けど、地上波ではなかなかオンエアしづらい(笑)。例えば、モロッコに行くと、バツイチの女性が店を営むマーケッ

トがあるのですが、それはモロッコの結婚観がすごく独特で、離婚した女性のほうが美しいという概念があるからなのです。それだけで面白いじゃないですか？ でもそれだけだと地上波での放送は難しい。

フットワークを軽く、少し変わった視点でコンテンツを作っていきたいですね。その中でたぶん地上波にふさわしいネタも絶対見つかるので、そうしたエッセンスを集めて地上波で出すという流れを作れないかなと、いま思っているところです。

大規模な戦争が始まって1年が経つガザもそうですが、世界にはドラッグや紛争など危険地帯はたくさんあって、そうした地域に生きる人々に何かを還元できるようなコンテンツを作っていきたいと思っています。

オススメコンテンツ



【須賀川・特派員取材】橋の下に広がるのは…ドラッグと絶望がはびこる“地獄”の光景 タリバン統治から1年 アフガニスタンにまん延するドラッグと貧困の実態

アフガニスタンの橋の下に広がる地獄の光景に迫る。人々は至るところでドラッグをあり、辺り一面には悪臭が立ちこめていた。横たわる人々の多くは、その生死すら判然としないうちに…アフガニスタンを覆う薬物の闇を取材した。



from
YouTube

尺を気にせずに、ディテールを織り交ぜた取材映像を視聴者に届けることで、視聴者のジャーナリストの方に対する信頼が醸成され、今後その方のレポートを見たい気持ちが強まります。結果、チャンネル全体へも良い影響をもたらすことが期待できます。